

第7回南高教養アップ講座

講師 京都大学大学院文学研究科 堀田 崇 氏

演題 「 比較認知科学という分野 」

【要旨】 あまり聞きなれない学問分野かもしれないが、動物心理学から派生した比較認知科学という分野がある。この分野では「動物のこころの多様性を探る」ことを目的としており、多種多様な動物でこころの機能を明らかにする試みが行われている。近年ではイヌやネコといったペット動物、爬虫類や魚類といったとても幅広い分類群を対象としている。本授業では、近年明らかにされた動物のこころの多様性について紹介する。

【生徒の感想】

- 私は猫を4匹飼っており、将来獣医になりたいと考えています。動物を飼ったことがない友だちに、動物は意思も感情も持っているし、コミュニケーションをとれる！と経験則を話したら、そんな非科学的なことはあり得ない、と一蹴されてとても悔しい思いをしたことを思い出しました。動物間での感情の読み取り、会話、意思はあると私は信じていますが、科学的に…となるとそれを証明する手段が思いつきません。不可能だと思ったこともありました。今回「比較認知科学」というものを初めて知りました。そのような学問もあるのか！と感動しました。今のところは臨床獣医師になろうと考えていますが、研究室に残ってそのような学問を研究していくという道も楽しそうだな、興味深いなと思いました。
- 今回の講座に参加して、前々から気になっていた「心理学」の中の「比較認知科学」について詳しく知ることができた。私は今、インコを飼っている。インコを観察するにあたって、やはり、気になる行動や鳴き声がある。それが何を意図して行動しているのかがとても気になっていた。だから、今回の内容にはとても興味を惹かれた。「心理学」というと人間に対してだけだと勝手に思っていたが、「生物」にも焦点を当てており、とても新鮮に見えた。また、私が前々から持っていた「先入観」「決めつけ」が崩されたようでとても視界が開けたように感じた。魚だからこれはできない、鳥だからこれはできないといった決めつけが、自分たちの学びの開拓を妨げているということに気づいた。また、研究というのは小さなことに気づき、疑問を持つことが本当に大切なのだと気づいた。私は臨床心理士を目指す方向でいたが、今回の授業を通して動物の心理にとっても興味を持った。人間と動物、どこか通じるところがあるように思える。本気で目指したくなかったものを頑張っていけたらと思う。今回の講座を通して、気になっている「心理学」というものに触れることができた。普段は聞けないような話も聞け、とても有意義な時間となった。
- これまでヒトは「えらい」「特別」などと心のどこかでそのような感情を抱いていたけれど、果たして本当に「特別」なのかと問われると答えは出ないなと思った。研究紹介では動物にも「自分」という概念がある？ということに興味を持った。魚とかにはあるのだろうかと思ったけれど、視覚を使い、学習をし、「自分」ということを認識していてこの概念は様々な動物に共通しているのだなと感心した。動物も「嫉妬」という研究はサルの反応が人間のようでとても面白かった。ヒトとは何か。身の回りで常

に起きている動物の動きについて根拠は何かなど、考えれば考えるほど分からなくなりました。

- 私は将来、児童相談所の職員になり、傷ついた子供たちの心をケアしてあげたいという夢があります。そのため、心理学、特に臨床心理学に興味を持っていました。私の夢を実現するのに一番近い分野だと思っていたからです。しかし、今回の講座で考え方が少し変わりました。PTSD になっている子を助けてあげたい、そのためには臨床心理学からしかアプローチできないと考えていましたが、比較認知科学からもアプローチできるという考えに変わりました。今回のお話で、世界にはトラウマ、重度になると PTSD を抱えて生きている人がいます。では動物ならどうだろう？もし人と同じようにトラウマや PTSD を抱えているとしたらどうやって治療をしていけばよいのだろうか？などの今までなら思いつかなかったような疑問がたくさん湧いてきてとてもワクワクしました。大学に行ってからやりたいことが漠然としていましたが、それが形になりました。心理学が専攻できる大学に行き、自分の夢を実現したいと思います。
- 心理学と言えば人間という漠然としたイメージがあったが、進化の過程をさかのぼって、動物の心理学を研究することで人間の心理へつなげようという考えは全く考えたことがなかったです。今回の講義を通して、特に動物には「自分という意識はあるのか」という研究に興味を湧きました。他にも、ヒトの言語は学んで使うものであるが、動物のいわゆる言語はヒトの使う言語とは違うのではないかという考えにも関心を持ちました。未知の言語を研究するように一つ一つ理解していかなければ何を言っているか、ヒトの言葉で代弁することはできないという説明に納得しました。
- 私は普段から「人間は本当に特別な存在か」という疑問を抱いていたので、比較認知科学という分野は自分の疑問にかなり合っているなど感じました。興味深かったのは鏡像自己認知の実験で、サルが自己認知できるのは予想できたけど、魚が認知できたというように見えたのはとても興味深かったです。…私は文系を選択していて、将来文学部に行って言語を学びたいと思っていましたが、心理学部に行って動物の心について学んで研究してみたいと思いました。普段興味はあるけれど、どこか遠くの存在として感じていた心理学という学問により興味を持ち、より強くやってみたいという気持ちが湧きました。普段の自分の素朴な疑問が、こんな分野に発展していくとは知らなかったのも、とても有意義な話が聞けたと思います。自分の今考えている選択肢が広がって、将来を考える上での素晴らしい講座を受けることができとても嬉しかったです。もしこの分野に携わることができたら哺乳類の動物について研究してみたいです。
- 私は猫を飼っています。私は猫の気持ちを理解しているつもりですが、猫の方は私の気持ちを感じているのか、自己を意識しているのかなど、その根本的なことを考えたことがなかったので、今回のお話はとても衝撃的でした。…紹介していただいた研究や実験には色々な視点があって、動物について深く理解していくことはとてもワクワクするものだと思います。
- 今まで私が知っていた心理学というのは「人の心の動きを探る」というものだったが、「動物」という別のところからアプローチをし、そこから人について考えていくとい

う方法を知り、感銘を受けた。日々を生活する人間に心があり、行動しているように「人間以外の生物にも心があるのか？」と考えていくことはとても面白そうだった。特に心に残っているのは、サルの嫉妬の実験だ。ヒトは日常的に「怒り」や「イライラ」を覚えている。が、それは他の種にも存在すると分かり、同じ生き物なのだということを改めて感じた。…今回の講座を通し、自分の進路について道が大きく広がるとともに、大きな道の分かれ目に立っていることを認識した。質問に答えてくださったように、文系と理系を選ぶ大切な時期であることを思い知った。自分のやりたいこと、知りたいこと、見たいもののために、苦手な道に進む決意をしていきたい。